



しあわせ メッセージ
幸福の手紙
2014 年作品集

NPO 共生フォーラム
幸福の手紙 ♥ プロジェクト

はじめに：

今年で第6回目を迎えた幸福の手紙大募集。お陰様で今年も九八一通の心温まる「ありがとう」の手紙をお寄せいただきました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。審査結果は十二月十四日の発表の通りですが、受賞作品の他にも十一名の審査員の心の琴線にふれた応募作品が多数ございましたので、受賞作品とあわせて、ここに作品集としてご紹介いたします。なお、受賞者は次の通りです。

幸福賞（一選） 野崎 悠様
感動大賞（一選） 立入恵里子様
理事長賞（二選） 瀬川達実様

水口涼太郎様
鈴木 栞様

感動賞（六選）
吉澤美輝様
伊藤恭子様
高 弘強様
中坂徳美様
富田康明様

皆様、おめでとうございます。

二〇一四年 年満月

熊本市白川中学校昭和三六年卒三年二組の皆さんへ

いまを去ること半世紀余の昔、当時二十代の経験未熟な私が貴方たちの担任ながら試行錯誤を重ねクラスのまとまりも崩れそうになつた一年が過ぎ、別の学年に移つた後、新三年の担任のY先生のお言葉もあつて、高校に進学された貴方たちの八景水谷水源での夏のクラス会に招かれて写真撮影などして過ごしたことがご縁で、それ以降、皆さんの大学卒業の年のクラス会にも招かれ、更に皆さんの還暦記念クラス会にも出席でき、少々気にかかつていたことなどすっかり消え、打ち解けたムードの中で自作の餞の歌をあげたり校歌とともに高校三年生の合唱までやれたことは、旧担任としては、忘れられない思い出となりました。私の傘寿を祝う会も企画されましたが、私の体調故に出られませんでした。しかし、今は私は毎朝起床後三十分ほど腹式呼吸の体操をやつて、寄せ書きとともにいただいたパーカーペンで短歌に楽しむ日々です。皆さんのご多幸を祈りつつ最後に一言、本当にありがとうございます。



九月の下旬、八十歳になる母と標高二三五〇mの涸沢へ行つた。涸沢は母の青春時代の一コマ。私たち夫婦が一緒なら行くか尋ねたところ、二つ返事で決まつた。母は週三回、水泳教室に通い、バタフライまでこなすが、心肺機能が高いとはいえず、八十歳の身体にとつて岩場の多い道は決して楽ではなかつたはずだ。何度も立ち止まり、登るのが嫌になつたと漏らす母を励ました。そして、絶景が母の疲れを癒す助けとなり北アルプス涸沢小屋に到着。穂高連峰の雄姿に目を細めて、懐かしそうに見つめる母の顔は、満面の笑顔。そして何かやり遂げた達成感に満ち溢れていた。母の辿つた道を一緒に歩くことができ、本当に良かった。母の荷物を分担して背負つてくれた妻にも感謝したい。下山は上高地までの十七キロを歩きつた。母と一緒に過ごせた三日間に感謝をする。と共に完登できた母に金メダルを贈りたい。

六十六歳になつて、様々な出逢いもあり、多くの人にありがとうと感謝を感じて過ごして参りました。三年半過ぎて未だ記憶の中から抜けきれず恐怖である東北大震災。

私の夫は日頃、口を一文字につむり静かな口調なのですが、あの日夜勤明けで寝ていた私は一瞬何が起きたのか？茫然とするだけでしたが、夫は私を抱きかかえる様にし、毛布を頭にかぶせ息もできなくなる位、上に重なり、大丈夫だ？何だこれは？と叫んだ姿、目には見えなかつたけど、この時ほど、夫のやさしさを身にしみた事はありません。少し落ち着いて園に電話しろ！と強い口調で勇気づけてくれ、何もなくなつてしまった私の職場に、梅干しと少し半炊きの御飯を運び続けてくれた夫に、今あらためて、ありがとうと言いたいし、これからもよろしくねと伝えています。

僕の父は一昨年すい臓癌が発覚し、家族の看病の甲斐なく、昨年七月になくなりました。亡くなつてから時間が経過し、父と一緒に過ごした日々の中で僕が学生の時に父から言われた事を思い出しました。俺は学力がないから会社でとても苦労しているんだよ。勉強など誰もしたくないんだよ。苦しくても必ず自分に帰つてくるから一生懸命努力しなさい。」と口癖のように言っていました。今さらではありますが、空きているうちにありがとう」と伝える事に価値がかつたと考えるようになり、言えなかつた事を後悔するようになりました。そしてカメラが趣味の父が京都の神社、仏閣のきれいな紅葉を撮りたいと言つていたので、あまり親孝行が出来なかつた事も心残りであります。俺の事を大事に育て、一番に考えてくれた父に少し遅いありがとう」を言いたいと思います。



お父さんへ

仕事で疲れているのに、毎日朝早くに起きてお弁当を作つてくれてありがとう。部活で帰りが遅くなる時も迎えにきてくれてありがとう。そして何よりも私のことを心配して大切にしてくれてありがとう。

お母さんが亡くなつて一年半程が経ちました。あのとき私は言葉にならない程の悲しみと後悔でいっぱいでした。それはお父さんも同じだつたと思います。しかし、お父さんはほぼ毎日々食を作つてくれました。私が高校生になつてからも朝早いのお弁当を作つて、帰りは遅いのに夕食を作つて待っていてくれました。他にもいろいろな面で支えになつてくれて本当にありがとう。

最近は部活が忙しくて家の手伝いを全然できなくてごめんなさい。これから少しずつ落ち着いてきたら手伝っていきなさいと思つているので、これからも宜しくお願いします。

支えてくれて、ありがとう。

今、僕には、大事にしている人がいます。その人に対して「ありがとう」って気持ちはこの作文に書きたいと思います。

僕が落ち込んでいた時とか、悲しんでいる時に、その人はいつも気にかけてくれて優しくしてくれ、とても支えになっています。どこかに行く時も、毎回「気をつけて」と言ってくれて、毎日連絡をしてくれます。

僕は、その人がいるから今の自分がいると思っています。とても心の支えになってくれていて、本当に感謝しています。

まだ僕は照れくさくつて、その人に「ありがとう」というを言っていない。だからちゃんといれからは「ありがとう」と伝えていきたいと思えます。そして、いつかは僕も、その人を支えられる存在になりたいと思っています。本当にいつも支えてくれてありがとうとつづぎたいです。

◆◆講評◆◆

すべての作品にひとりひとりの思いがたっぷり、選考に本当に苦労しました。全体として家族や身近な人に感謝する作品が多かったのですが、私も年を重ねたので「しょうか？年齢が高いと思われ作品に心うばわれました」



私には、伝えることができなかつたありがとうがある。それは東日本大震災で感じたことが。大きな揺れが日本を襲つたあのとき、大規模な停電が発生した。不安な時間が過ぎる中で家の外から音が聞こえた。私は不思議に思い外を見てみると数人の男の人が必死に作業をしていた。夜中の十時頃、とても寒く明かりが一つもない状況でその人たちは電柱にのぼり、電気が早く復旧するようにと働いてくれたのだ。た。その時、私はなぜか不安な気持ちよりも感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。ありがとうは簡単に、不安な心に勝てるんだなと思つた。

考えてみると、私たちが寝ているときでさえ、一生懸命働いてくれる人がいる。目に見えないところで作業をしてくれている人もいます。自分が楽をできるのは、誰かが動いてくれているからだということに気付ける自分でいたい。そして、その人たちに「ありがとう」と心から言える人でありたいと強く思っている。

「前向きに」

私は、中学生の時の顧問の先生にとっても感謝しています。

中学生の時、私は陸上部で顧問の先生は学校でも一番という程厳しい人でした。しかし、私が受験で公立高校に落ちてしまった時、とても素晴らしい言葉をくれました。「あなたは公立に落ちてしまつて落ち込んでいてもかもしれないけど、この経験をしたことによつて受かつた人よりも少し成長したと思つて良い。失敗を知らないで生きていく人よりもあなたは強くなつているし、優しくなつているから。」こう言われて、私は立ち直ることができました。そして、あなたは高校に行つても、名前の通り人と人を結ぶように周りに優しく、菜の花のように清らかな美しい人になりなさい。あなたにはそれができると私は思っているよ。」と言われました。あんなに厳しかつたのは、こんなにも私のことを思つてくれていたからだのだなとこの時に気付きました。この言葉を胸にこれからも頑張つていきます。

私は、お母さんに言えなかつたありがとうを伝えたいです。

私の十七歳の誕生日の朝、いつも通り学校の用意をして、時間がなかつたので急いで家を出ました。お母さんが待つて！お弁当に保冷剤を入れていつて！」と引きとめてきました。時間がなかつたので無愛想に返事をし、そのまま学校へ行きました。お昼になつてお弁当をあけるとチャック付の袋に「いつも頑張っている○○へ。お誕生日おめでとう」と書いてあり、その中に小さなチヨコレートが入っていました。後でお母さんからのメールを見るとチヨコレートが入っていました。急いでいたのから保冷剤入れたかたんだ。急いでいたのにごめんね。」ときていました。それを聞いてうれしくなり、朝、無愛想にしてしまい悪かつたなと思いました。恥ずかしくて言えなかつたごめんねとありがとうを言いたいです。今もメッセージが書いてあるチャック付ビニール袋は大切に取つておいています

私は、将来の夢を見つけさせてくれた両親に「ありがとう」と伝えたいです。いつもは素直に伝えられないありがとうをこの手紙で伝えようと思います。

私の今の夢は、両親の仕事である劇団を継ぐ事です。この夢を見つけたのは小学四年生の時で、両親の働いている所を生まれてからずっと近くで見えていて、きれいな、かっこいいなと思つていたことがきっかけでした。でも近くで見てるからこそ、苦しい事も辛い事も見えてしまい、迷いが生まれていました。その時、両親が自分がやりたいことをやりなさい。お父さんたちは応援するからと言つてくれて、劇団を継ぐという夢に迷いはなくなりました。劇団の存在を知れたのも、夢を支えてくれたのも両方とも両親でした。だから、私は両親にありがとうと伝えたいです。そしていつか夢を叶えて、行動でありがとうを伝えていきたいです。

私の「ありがとう」は、姉に伝えたいです。私が中学一年生の頃、母が病気で亡くなつてしまいました。姉は、母の病気が分かつてからいつも看病していました。姉は友達と遊びに行かず大学と病院、母が退院すると母の最後まで役目を果たしていました。今、思えば本当にもつと自分も力になれず、別に姉の役目でもなかつたと思います。なのに自分から嫌な役目を背負つて、その上、手の掛かる妹がいて、毎日家の家事をすべてやつてくれて今も母の代わりとして私が高校を卒業するまで母の代わりをしてくれます。母が病逝きになつてからこの状態があたりまえになつていて、私は本当に姉の大学と看病の辛さと大変さ、妹の面倒に毎日の家事の辛さと大変さをまったく知ろうとしないで姉が私にしてくれたこと全てにおいて当たり前で感情でいづばいでした。今でも最低で本当に申し訳なく、それと同時に誰にでも出来ることじゃない事をした姉に尊敬とありがとうを伝えたいです。



ありがとうございます。君のおかげで…。

クラスの子のすれ違う人の視線が嫌いで学校なんてなければいいと思つた。

一人でいい。仲間なんていらぬ。そんなもの作るから「じめ」なんてものが起きるんだ。話しかけるから「無視」なんてものになる。そんなもので傷つくやつが馬鹿なんだ。

私は自己防衛のために、自ら孤立した。でも君と出会つて、君が本当の私を見つけてくれたから、仲間と語り合う楽しさを知ることができた。仲間と会える学校が楽しいと思つた。今は、学校が休みの日には、物足りなくなつて、毎日が、とても楽しい。

君のせいで、仲間が増えた。

君のせいで、学校が楽しくなった。

君のおかげで、毎日幸せです。

ありがとうございます。

義父の笑顔にありがとうございます。

〇〇さん、デイサービスに行つてるネ。施設に入ったんです。人ごとの様に話していたことが、まさか自分の家族に「認知症」義父が、家族一番の中心でいた人が、どうしよう、どうしようと、家の中が重く感じました。『バーちゃんどうしたの』孫達もびつくり、八人家族でにぎやかでした。

義父の顔に明るさも笑顔も消え、家の中が暗くなりました。義父に『ごめんなさい』家で見てあげたいけど、身を切られる思いで施設に入つてもらいました。今日は、気分がいいのか、夜眠れた。ごはんも食べられた。子供に話しかける様に翔裕園グループホームにお世話になつて一年半。笑顔を戻してもらいました。ありがとうございます。また来ますからね。『うん、あまり無理するな、頑張つてな』義父から温かい言葉。ありがとうございます。

◆◆講評◆◆

多くの作品が実体験を通しての感謝の心、感動の心が表現されており、素晴らしかったと思います。ありがとうございますの言葉が心に深く残ります。

「おはよう」の挨拶から我が家の一日がスタートします。私が嫁いで今年で三十年になりました。家族と共にいつも笑い時には悩んだ時もたくさんありました。そんな温かい生活も義母とは、六年間しか過ごす事が出来ませんでした。教えてもらおう事、学ぶ事はまだまだたくさんあったのに後悔の日が続きました。私は仕事を辞め、育児未経験である農業に携わり、悩んで立ち止まっていると、いつも支えてくれるのは主人でした。やれば出来るのではなく、やらなければ何も始まらないし、出来ない。失敗しても日々前へ進まなければいけないと後押ししてくれました。自分の仕事も忙しく、疲れしているのにも支えてくれて「ありがとうございます」と心の中でつぶやき主人の温かい目と心に見守られ、そして子供達の笑顔、家族の笑い声を聞きながら、また明日も頑張ろうと思いつつ生きてきました。感謝の心と笑顔を忘れず、一路前進です。

いつも支えてくれて「ありがとうございます」

私は心のこもった「ありがとう」がなかなか言えません。この言葉を日常的に使いますが、表情も変えず相手の顔を見ないで言うてしまうことが多々あります。

これで本当に相手が気持ち良いのか？ 私は、いつもそのことが頭にあり、言葉が出ないのです。

ところが昨年、叔母がホームに入所して面会に行くたび「いつも富美江さん元氣貰っているんですよ。」笑顔を見るたび心がいやされるんです」と言っていたきます。家ではほとんど笑うことも話をすることもなかったのに、少し驚きました。

でも皆さんの仕事を見ているとわかります。相手の目線に合わせ、笑顔で明るい元氣な声、そしてその人にわかりやすい言葉遣い。

いつも誰かが話しかけてくれるから叔母も自然と笑顔になつてきたと思います。本当にあかるくしてくれてありがとうでございます。感謝の気持ちがあれば、この言葉も言えると思います。

突然の頭痛におそれ、病院へ。途中、車中であなたの様子に不安を感じました。

すぐ救命処置をしていただきましたが、医師からは絶望的な説明。でも、どうしてもあなたに生きてもらいたくて医師にお願いして手術をしていただきました。命はとりとめました。が、しばらく意識が戻らず、つらい毎日が続きました。

子供達は毎日、父のそばに付いてくれました。医師、看護師の皆さんの手厚い看護のおかげと主人の生命力で何度もの危機のりこえました。その間、親戚、主人の職場の皆さん、生徒達からのたくさん励ましがありません。主人は皆さんに慕われていたのだなと思いました。

皆さん、ありがとうでございます。今日も主人は元氣です。

◆◆講評◆◆

物語りの情景が自然に映し出されるもの、そして自分のためだけでなく、誰かのために生きていく思いが伝わってくるそんな事を主眼に選びました。審査を終え、とてもやさしい人になれた気がします。この機会をいただいた「幸福」に「ありがとう」です。

「ありがとう」への想い

ありがとう。の六文字、あらためて口ずさむ。これまで無意識で日常のことばとして使っていた。今回の使命に預かつて考察する機会を与えて下さった企画部に「ありがとう」と感謝いたします。ある時、若い女性職員さんに、あなた「日に何十回、ありがとう」と言ってるのかと問うてみると「わからない」とおっしゃる。すつかり身に付いた専用語になつているのか、いいえ、真心こめた優しさが全身にみなぎっている感じ。職員の方々が「おつかれさま」の合い言葉。私も「苦労さま」から「おつかれさま」と自ずから変わつていたのです。だから雰囲気やさしく明るいのも当然のことですね。私もこの頃、歳を重ねたせいか、家族にしみじみ感謝する毎日です。これまでは、親を大切にするのは子供として当然だと思つていたのに、私に快適な生活をということでリホームなどいつの間にか成長したのか、息子夫婦に感謝ばかりです、きょうも「ありがとう」でスタートです。

今日と明日につなげる

頭に秋をつけると、頭の中で唱える。父さん、母さん、家内、子供たち。今日も「日頑張つたよ。明日も。」ここでよろしくね。」とは、言わない。

昔、がんの患者の往診をしていた。その妹さんが看病し、食事も作っていた。60歳を越える老婦人。彼女は狭い庭に、鉢上の花々。大輪の菊。トランペットなど。夕方、良く観察し、手入れする。見事な咲きっぷり、彩りに心を癒やす日々。あの蕾も、明日には咲きそう。きつこの老婦人は、秋に頭をつけるとき、今日の花々の様子から、明日、明後日に施すべきことを練った。今日から明日へと、夢を膨らませ、未来に繋げる。

ある日、買い物に出かけた道すがら、呼び止められた。「人の写真家。白髪の老婦人に惹かれた。一枚の額縁入りの写真が届けられた、すがすがしい老人が輝いていた。」

生れてきてありがとう。

障害が残るかもしれない。「お産後二日目に私に告げられた医師からの言葉。私たち夫婦にとつて三人目の子供。九年ぶりに私たちのもとに生まれた二男。生まれてからすぐ産声が聞かれず、すぐ保育器に入れられ、酸素吸入され、体中黒ずんで運ばれていく姿を見てから私は出血多く、意識を失った。」

それから二日、二男に合う間もなく告げられた言葉。今でも忘れられない。

あれから四年。生後六か月までミルクを飲んでも、起きていても、寝ていても両手両足の先までチアノーゼが、よりみんなに心配をかけていた二男も四歳となり、知的には障害は残らず、おしゃべりな男の子として成長している。

あの時、医師からの言葉が本当にならなかつたこと、あの時、すぐに言つてやれなかつた言葉 至まれてきてくれてありがとう。」

「おはようございます。今日も宜しくお

願いました。」の挨拶から、私の業務はスタートします。居室を訪ね利用者様お一人お一人の体調把握に努め、コミュニケーションを図るとても大切な時間です。

私は今年の三月まで看護師として、病院に勤めていました。定年退職後、縁があり、現在は介護老人保健施設で働いています。最初、聞き慣れない言葉等あり、中の様子もよく分からず不安感がありました。しかし、スタッフの方々に支えられ五か月目になりました。ある日のことショートステイでの入退所が多く、多忙だった時がありました。何とか無事に終わり、心地よい達成感がありました。挨拶して帰ろうとした時、フロアにいらした利用者様から「あなたがいるとホッとするや。ありがとうね。」と声をかけていただきました。この言葉は看護師冥利につきます。とても嬉しかったです。私の方こそ、ありがとう、ございます。感謝しています。」

施設御利用者、一緒に働く仲間へ

私は高齢者施設で働き始めて二年目になります。働き初めた頃は、元々高齢の方と接する機会が少なかつたため、戸惑うことが沢山ありました。そんな中、利用者の方が掛けて下さる「いつもありがとう」や「苦勞様」という言葉と笑顔が励みになっていました。

一緒に働いている仲間も、大変だと言うこともありました。利用者が「ありがとうね」と一声掛けるとまた元気に働いていました。

そして、その利用者を笑顔にするために真剣に取り組む仲間の姿を見て、私も頑張ろうと思うことができました。

利用者の笑顔のために働く仲間と利用者とのありがたうの言葉。毎日目にする光景ですが、その一つ一つが私の支えになっています。

これからも、私を支えてくれる利用者や仲間、周りの方々に感謝の気持ちを持たずに働いて行きたいです。利用者様、一緒に働く皆様いつもありがとうございます。

しわしわの手に守られて

おばあちゃん、ありがとう。

あなたのそのしわしわの手に守られて、私は大きくなりました。さらにしわしわになったあなたのその手は今、私の子供達を包んでくれています。甘やかすだけでなく、時に厳しく注ぐ愛情も昔と変わらず。それをやると今になつて素直に受け入れることが出来る。

「うるさいなあ。わかてるよ。」と反発している小学生の娘は、昔の自分を見ているようです。四歳の娘が話すあなたをまねて覚えた方言まじりの言葉は、とてもかわいらしく愛しいものです。あなたの優しさに包まれて、子供達はのびのびと成長しています。そのおかげで私も安心して仕事を頑張れています。

いつまでの元気で長生きして下さい。

これからも変わらず、あなたのそのしわしわの手で優しく包んで下さい。おばあちゃん、本当にありがとうございます。

小さい頃、共働きで忙しかった両親の代わりに同居していた祖父祖母に私は面倒をみてもらっていました。保育所の迎えにはいつも祖父が来てくれて、自転車の乗る頃には乗れるまで練習に付き合ってくれていました。学校から帰ると祖母がおやつを作っていてくれたり、風邪をひいた時には祖母特製のお粥を作ってくれました。

そんな祖父祖母も年をとり、手伝いが必要となった時に、私は恩返しをしようとして介護職につき、一年が経とうとしていた時に、震災があり、大切な祖父祖母を亡くしました。足が弱くなり、思うように動けなかつた祖父。目が見えにくくなつてきた祖母。何もしてあげられなかつた後悔は残っています。

これからはこの職を活かし、利用者さんに優しくしていくことを祖父祖母も喜んでくれることだと思ひ、頑張ろうと思ひます。今まで優しくしてくれた祖父、祖母へたくさんのありがとうございますと伝えたいです。本当にありがとうございます。

じいちゃんが天国に行つて焼く八年が経とうとしています。生前と変わらず笑顔でくらしていますか。じいちゃんは私が物心ついた頃から通所利用して家で暮らす事が難しくなつてからは施設での長期生活。正直、孤独だつたろうし、辛かつたよね。それでも会いに行くといつも満面の笑みで迎えてくれて自分の事より、私達のことを一番に心配してくれたじいちゃん。亡くなる少し前に行つた時には病気が進行していて苦しかったはずなのに気丈に振るまつたね。帰り際「ありがとう」と言つて泣いたじいちゃんを今でも思い出します。涙を流すじいちゃんに言葉をかけれず、何も出来なくてごめんね。今、私はじいちゃんとお別れする時に誓つた介護福祉士の夢を叶え、介護施設で働いています。じいちゃんを支えてあげられなかつた分多くの人の支えになりたいと頑張っています。大変なこともあるけど介護の仕事に誇りを感じます。じいちゃん、きつかけをくれてありがとう。



今、こうしていられることに感謝です。

生かされていることに感謝です。すべてお陰様なのです。母が入所して四年を経過。家に帰ろう。」と言わなくなり、どれだけの場所がお気に入りなのか、玄関を入つたとたん「あら、素晴らしい！」と喜びの声をあげたのを今でも忘れられません。本当に良かった。もう私の名前も顔も忘れありません。母がとうござります」と深くと頭を下げる母に「どういたしました。大丈夫ですか。」と別人の口調で言わなければならぬ寂しさと悲しさ。でも今を穏やかにそして和やかに健やかに皆さんに見守られ過ぎて頂いている様子を見る度に本当に有り難くお陰様の気持ちで一杯です。母の笑顔で私は「ありがとう」元気を頂いて、又、頑張れるのです。母がいるだけで、会えるだけで幸せです。ありがとう！私も癌を患い大変でしたが、今、こうして元気でいられるのも益があり感謝です。親の恩に今できる事を精一杯悔いなく笑顔で頑張ろう。毎日、笑顔で過ごさせて頂いていることに感謝です。おかあさん、ありがとう！



日本に来てから、あつという間に三年が経ちました。日本に来たばかりの記憶ははつきり覚えていません。留学は大変だよ」とよく家族と周りの人に言われました。一人で外国で暮らし、生活、家事、食事などのことは日本に来る前に考えることはありませんでした。しかし、私は他の留学生より恵まれています。〇〇さんのおかげで日本語学校の勉強から専門学校、神学までとても順調です。この3年間で大変に成長しています。私は何もできない留学生から日本で一人前に留学生生活ができる学生になりました。これは私の個人的な成功ではないと思つています。周りの人々のおかげです。この3年間に支えてくれた人がいっぱいいて、幸福が溢れています。そして、将来の就職先病院の〇〇病院のご招待で京都に行かせてもらいました。心より感謝いたします。この3年間に支えてくれた人々にありがとうという気持ちを伝えたいと思います。皆さんののおかげでこの3年間に幸福が溢れています。この幸福はこれからの原動力です。そして私を産んでくれた親にありがとうと言いたいです。常にこの幸福を心に置き、これからの三年あるいは三十年をこの幸福を忘れないで、頑張っていきたいと思つています。皆さん、ありがとうございました。

おじさんへ

おじさんは私たちと離れて、もう二年間経ちました。この二年間、おじさんは楽しく暮らしていますか。天国で友達ができていますか？私がおじさんに会いたいことをご存知ですか？

私はもうすぐ看護師になれます。子供の時、私は将来、おじいちゃん、おばあちゃん、の面倒が見れて、体を守る人になりたいよ」という夢を持つていたことはまだ覚えていますか。今、おじいさん、おばあさんの面倒が見れず、夢が実現できないが、看護学校の実習でおじいさんみたいなやさしい患者様が多くいらつやいますので、毎日、患者様をおじいさんだと思ひながら、かかわっています。患者様から「〇〇さん、頑張つてね」などの話をうかがうと、本当におじいさんが励ましてくれたように温かく幸せだと感じています。患者様のおかげで寂しくなくとも幸せに暮らしていますので、おじいさんは私のことを心配しないでください。おじいさんもお幸せにしてください。

初めて受け持った患者さんへ

今年の秋にある三週間の病院実習にお世話をさせていただいて、本当にありがとうございました。

本当はきちんと自分の言葉で自分の抱いているものすごい感謝の気持ち等を等身大で伝えられれば良いのですが、語彙力も表現力もなく、私は改めてそれを精一杯伝える手段として、手紙の力を借りました。

実習中に辛いこともありましたが、楽しいこともたくさんありました。患者さんつて本当に偉大だと思いました。辛いことがあつても患者さんのおかげで立ち直つて、また明日も笑顔で頑張れると思ひました。

手術後でまだまだ痛いであろうが、笑顔で話してくださる様子に患者さんが元気になるつているのを見守ることがこんなによれしと思ひませんでした。私、いい仕事を選んだなあと思ひました。今でも、その頃の気持ちを思い出し、勇気を頂いています。絶対に立派な看護師になります。そうやって心に誓つたことを思ひ出します。

今後の治療も順調に進みますことをお祈り申し上げます。ありがとうございました。

医療の道を志して十三年。毎日が常に新しい出来事といつぱいです。その出来事の一つを文字にしてみたいと思ひます。

何が分からないのか。その理由が分からない。どうしようもない不安。それが病気のようです。分かつているけれど、私もどのように接するのが最善か毎日試行錯誤する。時に、理不尽な事で厳しい言葉を投げ掛けられる。そうすると、私も不機嫌な気持ちになつてしまいます。

ふと静かな日々。あなたに元気が無くなり、一日を寝て過ごしています。そして気付くのです。あなたがいる事で、私も日々刺激となり、原動力になつていました。

以前より、少しづつ少しづつ元気になつて行く姿を見ると私も自然と笑顔になります。

「ありがとうね」と言われると、私もつられて「ありがとうございます」と。あなたの笑顔の存在は周囲を笑顔にするのです。ありがとう「また明日会いましょう。」

あーちゃんへ

細身な見た目とは裏腹にパワフルな私の母。

父親を亡くし、十六歳で一家の稼ぎ頭となつた私の母。

夫を亡くし、二回目の一家の大黒柱となつた私の母。

嫌がる私を無理矢理栄養士養成学校へ入学させた私の母。

食は生きることには一番重要であると教えてくれた私の母。

食に関する栄養士という素晴らしい仕事を与えてくれた私の母。

出産と育児が理由でも、退職を許さなかつた私の母。

私の何倍も厳しくその何十倍も温かく、孫を育ててくれた私の母。

十三年経つてもいつも近くに信じて疑わない私と私の子ども達。

あーちゃん、今までも、これからありがとう。

天国に聞こえていますか？

私は今、「ありがとう」を伝えたい人はお母さんです。それは、今まで17年間生きてきた私の人生で一番心配を掛けたからです。

中学生の時、私は反抗期を迎えました。小さい頃から沢山の愛情を注がれて育ってきましたが、あの時は全てが嫌になり、周りの大人が手に負えない程反発していました。外国人の母に向かつて「自分の国へ帰れ」と言つてしまったこともありました。それでも母はいつも優しく接してくれました。

言葉も文化も異なる国でたつた一人で生きてきた母。日本人の父と結婚し、私と弟を愛情いっぱい育ててくれました。今では私よりも日本の習慣や風習を知っているのですが、心はずつかり日本人になつていますが、私の知らないところで、たくさん努力や苦勞があつたと思います。

◆◆講評◆◆

とても沢山の「ありがとう」を読ませていただきました。家族、友人、見知らぬ人、介護、病氣、別れなど様々なエピソードに心が震えました。読む人に感動を与えてくれて「ありがとう。」

私は母の介護を在宅している。慣れないことの連続で毎日慌ただしい生活である。弱った母を見て困惑し、ベッドからの起き上がりをしていられる際に怒る母に怒りをおぼえるなど心が優しくなくなる。鏡を見るたび、眉間にしわが増えたなど思う。

そんな毎日であるが、毎日声をかけてくれる学校の先生やクラスメイトには感謝しても足りないくらいである。私のリアルな介護の話を書いてくれ、アドバイスをくれる先生。私が介護の事でふさぎ込んでいると、それを敏感に察してくれて声をかけてくれるクラスメイト。介護で学校を休んだり、遅刻をした私に授業の内容や課題を教えてください。くれるクラスメイト。今もこうして元気に生活できているのは、今、あげた人々を始め、いろんな人々に励まされ、救われているからである。だから終わりの見えない毎日であり、不安も多いが前を向いて母の介護にあたつていこうと思う。本当にありがとうございます。

産まれてすぐ、ミルクをほとんど飲まず、飲んでも吐いてしまった私。体重はほとんど落ちていき、産婦人科から小児医療センターへと運ばれた。産まれてすぐに両親に心配をかけた私は、高校へ入学して半月ほどしてからクラスになじむことができず、早退を繰り返すようになったね。心配かけたくなくて黙っていたことで余計に心配させてしまったね。でもあの時、本当に辛かったら辞めてもいいんだよ。」ついでにつづけたから学校続けられたんだよ。介護の専門学校に行くつづけたときも応援してくれたね。

いっばい迷惑かけて、いっばい心配かけてきたね。まだまだこれからもたくさん心配かけるかもしれないけど、どうか見守つていて下さい。出来の良い娘ではないけど、二人の娘として産まれてくることができ、幸せだと思つています。これから仲の良い家族でいようね。大好きだよ。

あなたへ

いつもありがとう。

今日は、あなたにいつも言えなかつたことを手紙で伝えます。

あなたの人生において、誰かを優先にさせないで下さい。

誰かの人生の一部になるかもしれないときは、自分を分かつてほしいと言葉にしないで下さい。あなたのことを好きな人たちは、もうあなたのことを分かっています。

あなたの人生を変えてくれる人は、ただそこにいてくれる人です。

あなたに気がつかせてくれる。

どんな時にも必ず進める道があるということ。

その時はあなたが心から信頼できる時だと思えます。

◆◆講評◆◆

心を紡ぐ言葉、短くても人を思う「ありがとう」の言葉が多く書かれています。両親、兄弟、祖父母への感謝、友人、恩師への感謝、普段顔を合わせていても恥ずかしくて言えない感謝の気持ち、亡き人への感謝の気持ち、どれも甲乙つけられなかつた。すべての一冊の本として残してもらいたい

寂しがり屋なパパ。そちらの世界は慣れましたか？あなたが亡くなつて、もう2年になります。下の子ども二才になりました。子供たちの成長を見守つてきていますか？

長女は十才になり、難しい年頃になりました。ますます、美人になつていると周りに言われて、嬉しく思います。だつて、あなたによく似ている子がだから。下の子は、私に似ていたけれど、あなたに似てきたと周りに言われて、また嬉しく思います。

一緒に居れた時間に、どれほど愛し、感謝していたかを伝えないうでさよならをした事、後悔しています。あなたがいなくて、困る事、悲しい事が増えたけど、一つ一つ小さな幸せを感じる事が出来るようになりました。私を嫁にもらつてくれて、幸せにしてくれてありがとう。あなたの子供たちだから、私を想い愛してくれています。だから大丈夫。また生まれ変わつても、あなたと出逢つて、あなたの子供を産みたいです。

結婚してから今までに妻にありがとう。

とそして明日からも支えてくれる事にありがとう。なかなか、顔を見て直接いうことは少ないけれど、いつも感謝して、日々生活できています。ありがとうの一言を言うだけで、お互いが幸福になれるのならば、これからは顔をちゃんと見て、恥ずかしさや照れを忘れて、素直な気持ちでありがとうを言える人間になりたい。どんな環境、状態であつてもきつとこの一言のありがとうで、色々な事が消されて、幸福な一歩が再び始まると思う。困難や逆境をも乗り越えられるであろう魔法のような不思議な一言、ありがとう。ありがとうのこの一言さえあれば、これから先、今からの未来は、きつと幸福の時間を送れるような気がする。誰もが言える、使える、ありがとうの一言は、今日の活力、明日への元氣となりうるだろう力を秘めて、私は妻へという形のように、言う相手への幸福な手紙（めっせーじ）として、今この時もありがとうが皆に届くことを祈る。



Kさん、ほとんど言葉を交わしたことがなかつたのにスーパーの駐車場で突然、あなたはポツリと言つたのでした。鴻巣駅で特に飛び込むうとしてできなくて…お盆に六年前に死んだ家内の墓参りで群馬へ言つたきり帰る気になれなくて伊香保温泉で全財産を使い果たしてしまつて…」

八十五才で一人暮らしだといふあなたに何かお手伝いできること、ありませんか？」と問うと、あなたは大粒の涙を一つ「ぼして…」

手伝つてもらつたのは私の方でした。はかどらなかつた倉庫の片付けを二週間でやり遂げられたのは、あなたという相棒ができて、大活躍してくれたからです。整理下手な私のあなたはお師匠さんでした。見事な片付け力を発揮して下さいました。

「これから心を入れかえ生き直す」と八十五才のあなたが眼を輝かせた時は、実は鬱症状をかかえていた六十五才の私は、ハッとし、なんと鬱が消え去つたのです。手助け、ありがとう！



中学二年生、夏の夜。私は家出をしました。両親の離婚により大好きだった父と別れたことで家に自分の居場所を見いだせなくなつた私は家族から逃げるように外へ飛び出したのです。悲しさ、やるせなさ、怒りが混じつた複雑な胸の内を誰かに聞いてもらいたくてポケットに入つていた一枚の十円玉であなたに公衆電話をかけました。夜十時に駆けつけてくれたあなたは泣きながら話す私に寄り添い、共に泣いてくれましたね。翌朝学校で互いの腫れた目を笑いあつたことを覚えています。誰にも言えなかつた思いを伝えたその日、私はあなたの横に居場所を見つけることができました。今では、それぞれ異なる道を歩むようになり、会う機会も減りましたが、たまに会うとあなたの目を思い出し、感謝の念を感じます。あなたという存在に救われました。優しく支えてくれた親友へありがとう。

お父さんへの言葉。

お父さん、天国にいても元気でいますか。僕は元気で。僕が十四歳の時にクモ膜下出血が原因により突然この世を去ってしまった。もう六年の月日が流れてしまいましたね。

お父さんが突然この世を去り、僕は初めて人の命の重さを知り、同時に大切な人を失う悲しさを知りました。別れの言葉を直接伝えることができなかつたこと、自分がこの時に何もしてやれなかつた無力さに今でも自分への怒りが込み上げてきます。それでも前に進み、お母さんを支えていきながら、今を生きています。

僕も今年で二十歳になり、社会人としての一歩を踏み出します。最後になりますが、伝えられなかつた言葉を伝えます。

小さかつた僕にいろんなことを教え、時には叱り、時には一緒に笑い、一緒に生活してくれて、本当にありがとう。」

あなたとの出会いは、最悪でした。お茶を出すときに入らず、コーヒーを出しても違い。あなたの意思は私には伝わらず、互いにイライラしました。私もあなたと居ると居心地が悪く、あなたもそれを感じてたと思います。

でもたまに、お互い気持ちがあつた時もありました。心で庭へあじさいを見に行つた時、何色のあじさいが好きか訪ねたら、赤紫色が好きだと言ひ、私も同じと答え、赤紫色のあじさいの枝を切り、部屋に一緒に飾りました。

私はあまりあなたとは関わらないようにしていましたが、最後の日、話せないあなたが声を絞り出すように「ありがとね」と私に言つてくれた時、本当に嬉しかつたです。

あなたは私の事をそんなふうに思つてくれて、私の方こそあなたに心から「ありがと」ございました。」と言ひたいです。いつまでもお元気で長生きをして下さい。きつとまたお会いできる日を心待ちにしています。

私の思いを天国にいる父に送ります。

父さん、今はゆつくり休まれていますか。私は来年の春から介護福祉士として新たな一歩を踏み出します。今、こうしていられるのも父さんが私達家族を支えてくれたからだ実感し、本当に感謝しています。

小さい事から私は、父さんに負担をかけたばなしでした。昔の身体の弱かつた私を病院に連れて行つてくれたことは今でもはつきりと覚えています。本当にありがとうございます。

そんな負担をかけ続けてしまつたせいか、父さんは入院され、時第に元気もなくなつていってしまった。その姿を見て私は今までのことを猛烈に後悔しました。元気になつたら親孝行をしなければと思つていましたが、それも叶えることができなかつたことが本当に残念です。しかし、父さんにしてあげることをしていくことが私がするべきことだと信じて、前に進んでいこうと思ひます。

今まで本当にありがとうございます。

感謝の言葉

サンキユ、謝々、グラシアウ、ダンケ、スパシーバ、メルシーなどのように、感謝を表す言葉はよく知られている。人種や言語を問わず、挨拶や感謝の言葉が存在しているのは、それが人と人との関わり合いやコミュニケーションにおいて必要不可欠であるためだろう。何かをしてもらったり、助けられたりしたことに對し、礼を言うのに使われる。

しかし日常生活では、つい「すみません」と言つて済ませていることが少なくない。自分自身もそういう傾向がある。

ある時に自転車ごと転倒した方を助け起こした際に、大したことをした訳でもないのに何度も「ありがとう」と言われ、照れ臭いものの嬉しくも感じた。「すみません」では伝わらない気持ちがあることを実感した。自分もその機会があれば、「ありがとう」を正しく使つて気持ちを伝えたいと思う。



私を忘れてしまう前に、たくさんありがとうを伝えたい。

毎日、朝早く仕事へ行き、帰つてからは夜遅くまで図面を書き、休みなく、働き続けてくれたお父さん。七十四歳の誕生日を迎え、それでも頑張ってくれていたね。

お父さんが倒れてしまい、重度のアルツハイマーだと診断された時は、家族全員泣いて泣いて涙がもう出ないほど泣いてしまつたよ。病院の先生は「この海馬の萎縮状態でいろいろと覚えていく事が奇跡に近い。強い精神力を持つているんだね」と言ってくれたよ。

身体をはつて家族を守ってくれてありがとう。人を思いやる心を教えてくれてありがとう。お父さんに心配かけて、迷惑かけた時、私をずっと信じてくれたよね。人を信じる大切さを教えてくれてありがとう。お父さんの娘に生まれて本当にしあわせだよ。これからは一緒に思い出をたくさんつくりうね。私が全部覚えておくから。お父さん、ありがとう。

おじいちゃんへ

お久しぶりです。十年前のように手紙を書こうと思います。元気ですか？そちらは快適ですか？私は二十一歳になりました。高校卒業後、専門学校に入学し、もうすぐ卒業を迎えます。私が物心ついた時には入院を繰り返し返してなかなか会えませんでしたね。帰つて来てすぐ病院に戻つてしまつておじいちゃん。次はいつ帰つてくるのかなつて楽しみにしていたら真っ白になつて帰つて来ました。私は沢山泣いたよ。もつとお見舞いに行けばよかつたなつて。もつとお手紙書けば良かったなつて後悔ばかり。今ならおじいちゃんの病気の事、分かるのかな。私、病名も何も知らなかった。ねえ、たまには夢に出て来て？私、大きくなつたよ。話したいこと沢山あるんだよ。照れ臭くて言えなかつたありがとうも今なら言えるから。また会える日まで、お元気で。

ご飯

テストで百点をとって嬉しかった時、友達とけんかをして落ち込んだ時。どんな時でも家に帰れば、いつも母の作った「あつたかいご飯」が待っている。実はこの「ご飯」食べるまでその疲れや沈んでいた気分が消えて去って、嬉しい気持ちは倍増し、おまけに自然と笑顔になる不思議な力を持っている。

長年、私は母の作る不思議な「ご飯」が持つ力について考えてきたのだが、最近になつてようやくその理由がわかってきた。それは、母の作る手料理には家族への愛情がまつており、それを食べることで無意識に私は母の愛を感じ取り、安心感を得ていたからなのではないかということだ。

私が普段、心も体も元気にいられるのは、この「あつたかいご飯」のお陰である。これからも母の愛情に感謝しながら、私も誰かに愛を与えられるような人に成長していきたい。

私を支えてくれたもの

私は落ちこぼれである。大学を出て社会人となったものの会社の部署の方針についていけず、早々に退職してしまつた。別の部署に異動し、会社に残るといふ選択もあつたが、資格の有無で部署が決まらなかつたので、結局は辞める形をとり、国家資格を取得するために理系の専門学校へ進んだ。しかし、自分は文系人間。高校以来というブランクもあり、勉強についていくことは非常に困難だつた。三年への進級も危ういほどに。それでも留年することなく今日も授業を受けている。自分がわからないことを終バスまで残ってくれた友人。自分のために特別なノートを作ってくれた友人。再試験前日まで挫折そうになつたときにいつも励ましてくれた友人。今の私は多くの友人達に支えられて成り立っている。感謝しても感謝しきれないが無事卒業。資格取得した日には心から再び「ありがとう」と言いたい。

去年、夜中の一時にアルツハイマー病を患う祖母が急に起き上がり、父の車に乗って勝手にどこかへ運転していきました。

しかし、警察が祖母をみつけるよりも先に大学生二人が祖母をすれて帰つて来たのです。大学生のうち一人は父の車を運転し、もう一人は別の車でついていくという形の家までたどりついたそうです。大学生の話だと、祖母は混乱していたらしく、うちから十kmも離れたガソリンスタンドで「速子になつた」と泣きわめく祖母の声を聞き、助けに来てくれたそうです。祖母は家の住所を覚えていなかったのです。自分の名前を教えたそうです。大学生は名前からオンラインで住所を調べ、家を探してくれて祖母を家まで送ってくれました。私たち家族はとても心配していたので、祖母が帰ってきたときに大学生にありがとうと伝えました。

◆◆講評◆◆

感謝の言葉をなかなか言えなかつた、

言い出せなかつたという後悔のような内容が多いと感じました。目の前の人を大切にすると、この行動を具体的にすると、言うことが「今の自分の人生を大切にすることなんだ」と改めて感じました。

私は、三歳から七歳にかけてアレルギー性紫斑病に繰り返しかかり、最も長い入院では約八か月間入院したことがある。嘔吐や腹痛が続いたり、食事がとれず点滴だけの生活の時もあった。そんな私をずっと傍で支えてくれたのは母である。母は、毎日欠かさずお見舞いに来てくれた。地元の病院で入院していた時は腰が痛くなる様な簡易ベッドで寝て傍にいてくれる時もあった。時には、まだ幼かった私は母を帰らせまいと駄々をこね、雪の中、妊娠している母を駅まで歩かせてしまった事もあるそうだ。私が辛かった時、いつもいつも傍で支えてくれた母に沢山の「ありがとう」を伝えたい。

私は幼い頃からそして、今も母には迷惑かけてばかりだけど、これからは私が沢山母に孝行していききたい。いつも私の味方でいてくれる母。私はお母さんの子どもで本当に良かった。いつもありがとう。」と心から言いたい。

◆◆講評◆◆

お母さんへの想い出より、一人暮らしになつて初めて感じた大切さ、よく掛けていました。

東日本大震災が起きた。私は実験室で測定の仕事をしていた。今までに感じたことのない大きな揺れに、二人組で仕事をしていたもう一人の同僚と手を取り合い、床に座りこんでしまい、割れたガラス器具を片付けもせず外に避難した。もしそこにいたのが私一人だったらどんなに同様して心細かつただろう。心の底から「ありがとう」と思った。

その日から不自由な生活がしばらく続いた。停電、ガソリン不足、食料品不足。みんな無くなつても何とかなるものだった。電気は夜になったら寝てしまえばいいし、ガソリンは車に乗らずに移動すればいい。食料は畑から取つてくれればいい。

それまで当たり前に使っていたものが無くなつただけでこんなにも不自由さを感じると思うと、ろうそくの炎にもとても感謝できた。そばにあると気づかなかつたものに私は生かされていると気づき、私が生きられている全ての物に「ありがとう」と思えた。

部活のみんなにありがとう

私が「ありがとう」と伝えたいのは、高校時代の部活動の部員たちと顧問の先生です。なぜなら、部活動でたくさんの人に支えられたからです。

顧問の先生は部員一人一人に向き合ってくださる本当に良い先生で、大人として尊敬できる方でした。先輩達は厳しいときもありました。しかし、その厳しさは部活を運営する側になると、とてもありがたいことだとわかりました。後輩たちは自分達の指示に従い部活動運営を手伝ってくれて感謝しています。そして、同級生とは同じ苦楽を共にし、互いに支え合つたのでとても感謝しています。同じ目標に向かい切磋琢磨できる仲間とは、とても心強いものです。

このような自分を支えてくれた人たちに「ありがとう」の気持ちを忘れずにこれから生きていきたいと思えます。

自慢の父

我が家の自慢の父は、昼間はサラリーマンとして仕事をこなし、家に帰ってくるると「主夫」として家事をこなししてくれます。そんな家族のために精を尽くしてくれている父に「普段照れ臭くて言えない、ありがとう」の思いを伝えたいと思います。

いつも、休日にご飯を作ってくれてありがとう。味が濃いだのキャベツの千切りが太いだの文句を言っているけど、本当は家族全員お父さんの作るご飯をとても楽しみにしてるよ。いつも、どこにでも車で連れて行ってくれてありがとう。女性の買い物は男性にとつてすごく退屈に感じると思うのに文句一つ言わずに連れて行ってくれて本当に感謝してるよ。最後に、お母さんと出会って結婚してくれてありがとう。待望の愛娘として生まれてきた私は、本年十九歳になりました。まだ一人じゃ何もできない恥ずかしい娘だけど、これからはお父さんのことを少しは見習って、家事のお手伝いをしていきたいと思えます。お父さん！お母さんと一緒に長生きしてね。

パパ、ママ、私は一人暮らしを始めてようやく二人が今まで私のことをしつかりと思っただけだったことを感じました。私はいつも弟がうらやましかつた。いつもママを独占していたから。ママも私より弟を優先してたね。私は姉だから我慢しなきゃと思っただ。それでも誰かに甘えたくて弟がママなら私は、パパにと思っただけ。昔のパパは不規則な生活をしてたから甘えたら迷惑になると勝手に決めつけた。忙しそうに二人を見て、私は自分の思いやわがママを言うことが二人の迷惑になると思っただ。自分の気持ちを言わないいい子に育っただ。ある日二人は私の気持ちを知りたいと言っただ。気持ちを言っただ時、家にいることがストレスだ。なんて言っただ。あんな頃には本当に辛かつた。二人は私より弟のことしか見ていないようにしか感じられなかつた。けど今は、電話やメールで二人がどれだけ私のことを想っているかが伝わっているよ。パパ、ママありがとう。



母へ

天国ではいかがお過ごしでしょうか。あれから早八年が過ぎますね。私は今でも昨日の出来事のように心が痛みます。どうしてもあの時、もっと素直になれなかつたのかな。もう言葉として絶対に伝えることのできない「ありがとう」をこの手紙に記します。

覚えていますか。あの頃、勉強も手伝いもせず遊んでばかりで心配かけていましたね。そんな私は今、将来医療人として多くの命を救えるような人材になろうと勉強に追われる毎日を過ごしています。お母さんは自分の命をもつて命の大切さ、尊さを教えてくれました。できればお母さんの命も救いたかつたな。少しは親孝行できてるかな。これからも強く逞しく生きていきます。お母さんは笑って見せて下さい。そしてまた数年後に会いましょう。

私は今、幸せです。生んでくれて本当にありがとう。

私は、高校時代からサッカーの審判活動を年代問わず行っている。私が小学生の審判を行った時の話である。サッカーにはイエローカードとレッドカードがあるというものがあることをご存知だろう。しかし、小学生にはその他にグリーンカードというものがある事をご存知だろうか。イエローカードやレッドカードを示す時は危険な時が多いが、グリーンカードを示す時は選手がフアプレーを行った時に審判がありがとうという意味を込めて示すものである。私は、まだ一度も提示されたことはないが、グリーンカードを提示された選手は悪い気はしないだろう。

それと同時に私はグリーンカードは、その選手のみならずチーム保護者そして関係者全員にありがとうと言つてるように思える。

グリーンカード関係者全員にありがとう。私はこのことを肝に銘じて今後も審判活動を続けていきたい。

私は、お母さんが大好きです。そして感謝の気持ちでいっぱいです。

私のお母さんは仕事をしています。朝、家族を起こしてから毎日欠かさず、お弁当を作ってくれます。水等も夏は冷たい飲み物、冬は温かい飲み物を入れて持たせてくれます。お母さんは料理がうまいので学校に行くとお昼休みが楽しみでしよつがないます。また、雨が降つてると送り迎えをしてくれます。いつもは気にしていませんでしたが大変なことだと思ひます。そして、お母さんは仕事、家事をしながらもちゃんと兄弟を見てくれて気にかけてくれます。うまくいかなかったり悩んでいる時は必ず気付けて何があつたのか聞いてくれます。お母さんに話すとすつきりして元気になれます。お母さんは本当にすごい人だと思ひます。誰よりも尊敬する人で一番の私の理解者です。嘘もすぐにわかるので嘘もつけません。

お母さん、いつもありがとうございます。

◆◆講評◆◆

やはり、家族や親のことについて書かれているものには胸を打たれました。と同時に改めて無償の愛というもののエネルギーの凄さや大切さを痛感いたしました。家族主義の基本理念を今後も発展すべく、手本となろうであらう。欠としての向き合い方」が記された作品と選びました。

◆◆講評◆◆

今年、学生さんの応募が多く、職員の応募が少なかつた様に感じました。母さんへの感謝も素晴らしいと思ひますが、福祉施設で働く仲間として広く社会に目を向けて行きましよう。

貴方も伝えてみませんか？
世界で一番短い
幸福 七あわせの手紙 マッセージ
「ありがとう」を大切なあの人へ…

協力ありがとうございました。